

小学校第4学年 道徳学習指導案

日時 平成16年9月10日(金)5校時
児童 北上市立鬼柳小学校 4年2組
男子23名 女子17名 計40名
指導者 教諭 佐々木 修

1 主題名 命の重さ 3-(2)生命尊重

2 資料名 お母さん、なかないで (みんなのどうとく4年 学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

指導内容3-(2)について中学年では、「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること」をねらいとしている。かけがえのない生命に対する思いやりや尊重の気持ちは、自他の人格の尊重や人間愛、更には人間を越えたものへの畏敬の念の基盤となるものである。

生命尊重は思いやり、尊敬の念など人格に対する尊重を基盤として、生命そのものである身体の保持の面からも考えていかなければならない。しかし、活発な行動を伴った遊びほど楽しいが危険を伴うものである。生命を大切にし尊重したり、危険を避けたりする子どもを育てるには、単に危険を予想し活動を禁止するだけでは育たない。そこで、十分に活動させながらも危険に対して生命を大切にしようとする子どもを育てていかなければならない。

人間の存在(生命)は、周りの人々にとって喜びや希望をもたらしたり、たとえ悲しみや苦しみであってもそのことで精神に深まりをもたらしたりするものである。子ども達に生命は自己のみならず、多くの人々にとってかけがえのないものであり、多くの人々に支えられて生まれていることに気づかせ、生命を尊重する気持ちを深めさせたい。

中学年では、自分の生命と同時に他人の生命にも配慮できるようにならなければならない。そのため、自己中心的な時期から抜け出し、他との関わりを強めていこうとする時期に生命の大切さを考えさせることは意義深いことである。

(2) 児童の実態について

学級の子ども達は、運動や遊びを好み、毎日活発に活動している。とても元気がいい反面、時として、自分の遊びや行動に夢中になると、安全か危険かの判断がつかないことも多く見られる。自転車で危ない乗り方をしたり、交通ルールを守らなかつたりする子ども達や狭い廊下を勢いよく走って下学年の子どもとぶつかったりした子どもなど、言葉では生命の大切さを理解しているが、真の生命の大切さについては十分に理解できていない実態である。まして、他の人の生命の危険について真剣に考え、それを大切にしようとする子どもは少ない。

このような子ども達に、生命はかけがえのないものであり、自他の生命を大切にしようとする心情を育てたいと考える。

(3) 資料について

本資料は、仲よしの友達だった正子が交通事故でなくなるという出来事を通して、主人公や正子の家族は深い悲しみを感じながらも、正子の分まで精一杯生きていこうとする主人公の心の動きを描いたものである。

子ども達は、「これからもなかよくしましょうね。」という言葉によって、かけがえのない友達を失った主人公の深い悲しみを感じ取り、さらに、一人の死が周囲の人に計り知れない悲しみを与えることに気づくであろう。また、ぬいぐるみのモンちゃんに来てから、悲しみの中から自分のくらしや意識を変化させていく主人公の姿を共感的にとらえることができるであろう。

また、遺影が語りかけてくる場面では、主人公に生命の尊さ、生きることのすばらしさを教えてくれていることを感動的にとらえることができ、ねらいとするかけがえのない生命を大切にす

る心情を感得できる資料である。

4 指導の構想

子ども達が価値について主体的に考え、そして実践への意欲がもてるように本時では、次のように指導していきたい。

導入では、「いのち」という言葉から、どんなことを思うかを素直に発表させながら、ねらいとする価値への方向づけを図りたい。

展開前段では、資料を読み、主人公「わたし」の気持ちを中心に考え発表し合いながら、生命の大切さについて考えさせたい。基本発問は次の4つとする。

- (1) 交通事故の知らせを聞いた場面
- (2) 紙袋の中に入っていた手紙を読んだ場面
- (3) お葬式の時「まあちゃん」と呼んだ場面
- (4) 「モンちゃん」との生活の場面

展開後段では、本時の学習で思ったことについて書いたり発表したりすることを通して、生命の大切さについて考えさせたい。

終末では、子ども達が学校生活の中で見せる「がんばっている姿」や「楽しく過ごしている姿」を写真で紹介したり、生命の大切さについて書いたメッセージを読んだりすることにより、価値に対する実践意欲をもたせたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

生命はかけがえのないものであることに気づき、それを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 (3)	「いのち」という言葉から思ったことを発表する。 ・「いのち」という言葉からどんなことを思い出しますか。	・大切なもの。 ・お母さんからもらった、たった一つのもの。 ・人間だけでなく、動物や植物にもあるもの。	・「いのち」という言葉から、どんなことを思うかを素直に発表させながら、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開 前段 (30)	資料を読み、「わたし」の気持ちの変化を中心に話し合う。 1 正子が交通事故にあった知らせを聞いた時のわたしは、どんな気持ちだったのか。 2 紙袋の中に入っていた手紙とぬいぐるみを渡された時のわたしは、どんな気持ちだったのか。 お葬式で、正子の写真に向かって「まあちゃん」と大きな声で呼んだ時のわたしは、どんな気持ちだったのか。 4 モンちゃんが来てから、どんなことを考えながら生活しているのか。	・友達が死ぬなんて悲しい。 ・何で死んだんだろう。 ・正子がいなくなるなんて信じられない。 ・とても悲しい。 ・モンちゃんを大切にしなきゃいけない。 ・大切な友達がいなくなってしまった。 ・わたしだけでなく、正子のお母さんもとても悲しんでいる。 ・たくさんの人が悲しい思いをしている。 ・もう会えないのは悲しい。 ・本当にいなくなるなんてまだ信じられない。 ・モンちゃんを正子だと思って大切にしよう。 ・いなくなってもずっと友達だよ。 ・生命を大事にしてね。 ・わたしの分まで長生きしてね。 ・車に気をつけよう。 ・モンちゃんも正子もずっと友達だよ。 ・正子の分まで精一杯生きていこうよ。	・大切な友達の正子が交通事故にあった日は、どんな日であったかをおさえながら、強い衝撃を受けたわたしの気持ちに共感させる。 ・「悲しい」の発言については、「どうして悲しいのか」「誰にとって悲しいのか」という発問を通して、正子の死は、友達や家族にまで深い悲しみを与えていることに気づかせる。 ・深い悲しみとともに、自分は一生懸命に生きようという気持ちに気づかせるために、「まあちゃん」の後にどんな呼びかけをするのかを考えさせる。 ・正子が主人公に何を言いたかったのかを補助発問し、生命を大切にしようとする心情に気づかせる。 ・モンちゃんとの生活を通して、主人公は友達の死という悲しみを乗り越えて、前向きに生きていこうとする気持ちに気づかせたい。
展開 後段 (8)	本時の学習を通して、思ったことや考えたことについて発表し合う。	・たった一つのいのちだから、大切にしなければいけないと思った。 ・死ぬということは、友達や家族などたくさんの人たちに深い悲しみを与えてしまうことなので、もっといのちを大切にしようと思った。	・シートに書く活動を通して、自分の体験や本時の学習を振り返りながら、生きていることのすばらしさについて考えさせたい。
終末 (4)	マラソンや水泳等、学校生活で一生懸命ががんばっている姿を写真映像として提示し、学級の子ども達へメッセージを贈る。		・児童の様子について写真に収めたものを紹介したり、メッセージを贈ったりすることにより、価値に対する実践意欲をもたせたい。

(3) 板書計画

いのちの輝き	お葬式の時の絵	紙袋の絵	交通事故	いのち
子ども達の写真	・ もう会えないの ・ 死んでも友だちだよ ・ 正子の分まで生きるよ ・ モンちゃんを正子だと思って	まあちゃん	・ うそだ ・ さびしい ・ なんて信じられない	大切なもの 大事にしているもの お母さんからもらった たった一つのもの
子ども達の写真		これからもなかよくしましょう		
子ども達の写真		・ とても悲しい ・ 正子のお母さんも ・ 大切な友だちがいなくなった ・ モンちゃんを大切にしなければ		